



マンスリータイムズ みはま 8月号

登校日も いろいろな活動に取り組みました！

登校日は夏を感じる楽しい行事にたくさん取り組みました。一学部では8月登校日に「夏祭り」を開催！和歌山病院デイルームに飾られた色とりどりの提灯や、先生たちのはっぴ姿に視線をじっと向けている人もいましたね。8月22日（火）には、みんなで和太鼓を打ち鳴らし、音を聞いたり、バチから手に伝わる振動を感じたりしました。その後は、みんなで盆踊りを楽しみました。

二学部中学部も8月24日（木）に、夏祭り。学年毎に「射的」や「くじびき」など、趣向を凝らしたお店を開きました。他学部の人や先生たちがお客さんで来てくれ、盛り上がりました！



8月24日（木）、二学部高等部生徒・保護者を対象に、本校卒業生を迎えて職場や高等部時代の話や聴く研修会を開催しました。今回は令和3年度卒業生の谷畑聖さんから様々なお話を伺いました。ホテル清掃のやりがいや気を付けていること、ミスした後の気持ちの切り替えやコミュニケーションの大切さなどを話してくれました。多くの生徒から「いい話が聞いて良かった」「参考になった」という声が多く寄せられ、有意義な研修会となりました。谷畑さんも久しぶりに後輩に会えてとても嬉しそうでした。



一学部では8月22日（火）に、はまかぜ教室で楽器演奏会を行いました。当日は登校予定の5名の生徒が全員参加し、いつものように朝の会を行ってから演奏会がスタート。チューバ、ユーフォニアム、ホルン、トランペットが登場し、ケースから出てきた輝く金管楽器に興味津々で視線を送る生徒の様子が見られました。演奏ではホルンとピアノによるしっとりした曲で始まり、二曲目からは4つの楽器で、ゆったりとしたテンポの曲、最後は賑やかな曲へと展開しました。その流れに、音の共鳴を感じるように天井をゆっくり見上げたり、身体を大きく左右に揺らしたりするなど曲調によって自分の気持ちを伝える生徒の姿も見られました。演奏後は、楽器の紹介を聞き、楽器に触れたり、即興演奏を聴いたりしました。いろいろな先生たちと音楽を通して交流を深める機会になり、和やかな雰囲気のまま演奏会を終えることができました。



先生たちも“学んで”います！

夏期休業期間に職員研修にも取り組みました。今年度は県特別支援教育研究会夏期研修会の分科会で本校が発表を担当したり、近畿・東海・北陸地区病虚弱教育研究連盟研究協議会の主管校としてオンデマンド研修を配信したり、実践交流会を開催したり、と先生たちも大忙しの夏でした。今回は、7月25日に開催した令和5年度教育と福祉の連携協議会について紹介します。

「教育と福祉の連携協議会」では、和歌山大学教育学部特別支援教育准教授 古井克憲先生による「本人を中心とした意思決定支援」の講演がありました。外部から小、中、高等学校教員、保健師、保育士等26名の方のご参加がありました。講演を受けて、小グループに分かれて異業種で行われた協議では、それぞれが経験したことのある「意思決定」の場面やその時に行った支援について情報を共有しました。

事後アンケートでは、「『意思決定支援』は他人事ではなく、日常生活や業務、授業の中に多くの機会があること」、「児童生徒が自ら『意思決定』を行えるように環境を整えることが大切」等の多くの意見をいただきました。

